

陸上運動部部便り

2003 年 10 月号

京大戦・箱根駅伝予選会

目 次

1	京大戦	1
1.1	監督の言葉	1
1.2	主将の言葉	2
1.3	女子主将の言葉	2
1.4	試合経過	2
1.5	試合結果	7
1.6	主務より	10
2	箱根駅伝予選会	11
2.1	監督の言葉	11
2.2	副将・長距離チーフの言葉	11
2.3	選手の言葉	12
2.4	試合結果	13
3	新主将・新女子主将・新主務の言葉	14
3.1	新主将の言葉	14
3.2	新女子主将の言葉	14
3.3	新主務の言葉	14
4	2003 年度部内 5 傑 2003.10.5 現在	14

1 京大戦

1.1 監督の言葉

力はかなり出せたのだが 監督 八田 秀雄

京大戦は 10 月 5 日駒場で行われました。天気はよくいいコンディションでした。七大会の結果から、男子は厳しく女子は順調なのは明らかでした。男子は前半に 有利な種目が多いので、前半で波に乗れるかがキーポイントでした。最初の 100m で 1 点勝ち。走高跳 7 点勝ち。劣勢のハンマー投が同点。円盤投が 5 点勝ち。不利な 400m も 3 点

負けで済み、いい展開でした。しかし 110mH ではやはりというかの完敗。4 × 100mR でもミスが出て流れが去っていき、砲丸投の負けで勝敗はほぼ決まりました。最終的に 16 点差でした。女子は予定通りで最初からリードし、10 点差の圧勝でした。ただしフィールドは 2 点差で、中西の抜ける来年以降、こう楽な展開にはならないことも覚悟しておかなければならないでしょう。個人の記録では、米田が東大としては安達君以来の 100m, 200m で勝ち、200m は 21 秒台。田中啓が走高跳 2m で関東インカレ A 標準突破。1 年の新井が 1500m で 3 分台。1 年の佐野が三段 14m15。石井が 800m 1 分 56 秒台で三人とも B 標準。ハンマー小笠原が 44m26。女子で中西が走幅跳大会新 5m11。この他自己新が多く出ました。今年是对校戦ではいい結果が残せませんでした。それでは選手がふがいなかったかということ、必ずしもそうは思っていません。自分の力を出すという点では、ある程度できていたように思っています。残念なことです、力負けということになります。では何が足りなかったかということ、絶対のエースという気がしています。そしてそれには一人一人が、もっともっと高い目標を持っていくようにするしかないと思います。京大戦に関しては、あちらの主戦力が若いので、苦戦をまだまだ覚悟しなければならないのが率直の所です。どうかこれを切り抜けられるよう皆様のお力添えをお願いします。駒場開催でしたが、下野君を中心にまずよく運営されていたと思います。大会を自分たちのグラウンドで運営するというのは、大変ですがまた大事なことと思います。最後に毎回電気計時を担当していただいている鈴木正保先輩に感謝します。

1.2 主将の言葉

主将 村口 和人

我々4年生の多くにとって最後の対校戦となる今回の試合でしたが、残念ながら事前のランキングを覆すことができず、16点差での敗北という結果になってしまいました。東京開催ということで非常に多くのOB・OGの方々に応援に来ていただいていただけに勝つ姿をお見せできなかったのは残念です。ですが、100m、200mでの米田(2年)の好走、1500mでの新井(1年)の4分切り、走高跳での田中(3年)の2mクリアーなど来年以降につながる若い世代の活躍も多く見られました。今回の敗戦の悔しさは来年以降、後輩たちがきっと晴らしていつてくれるものと信じています。最後にはなりましたが、お忙しい中応援に駆けつけてくださったOB・OGの方々、本当にありがとうございました。

1.3 女子主将の言葉

女子主将 中西 紅美

今回で第2回目を迎えた女子の京大戦は、小林部長が優勝杯を寄贈してくださったこともあり、例年以上に熱気のこもったものとなりました。女子部全体としては、シーズン終盤ということで、疲れからかあまり記録は良くなかったですが、それでもほとんどの種目で1位を奪い、トラック・フィールド・総合すべて優勝をおさめました。京大に対し強い東大女子部を見せ付け、今季最後の対校戦を最高の形で終えることができたと思います。駒場グラウンドまで駆けつけてくださったOB・OGの方々の声援が大きな後押しとなりました。本当にありがとうございました。この京大戦を境に、女子部は現3年生中心の新体制に生まれ変わります。この1年間、女子部を支えて下さった方々に厚く御礼申し上げます。今後の新・女子部に対しましても変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

1.4 試合経過

トラック

10:30 男子 100m 決勝

3レーンに米田(2年)、5レーンに式場(3年)、7レーンに相川(1年)が出場。米田は、まずまずのスタートを切ると、中盤から後半にかけて爆発的なスピードをみせ、11"04のタイムで優勝。式場は、素晴らしいスタートをみせるものの、後半少しスピードダウンして11"33で3位。相川はスタートで出遅れ、最後までスピードに乗れずに終わった。11"61で6位であった。この時、向風1.2mであった。

10:35 女子 100m 決勝

3レーンに塩入(3年)、5レーンに小原(1年)の出場。塩入はスタートの反応こそ横一線であったが、そこから素早い加速をみせ一気に周囲を置き去りにする。中盤からは力を温存し、流した走りに切り替える。それでも後続をじりじりと引き離し、13"21で余裕の優勝。小原は好スタートから飛び出すと、軽快なピッチで加速し、中盤まで塩入と競り合う。後半も塩入にくらいつこうとするが、徐々に動きが硬くなり後退してしまう。それでも京大勢との差は歴然で、13"67の2位。このとき向風0.3mであった。

10:45 男子 1500m 決勝

今泉(4年)、山口(3年)、新井(1年)の出場。京大の西村を先頭にレースはハイペースで進み、初めの400mを62秒で通過する。600m付近までに、集団は完全に2つに分かれ、前は新井を含む3選手、後ろは今泉、山口を含む3選手の集団となる。ラスト400mあたりで新井がスパートをかけ先頭に立つが、あと150mというところで京大の選手にかかわられるも、3'58"0の2位でゴー

ル。見事関東インカレ B 標準を突破した。今泉はラスト 100m で京大の選手をかわし、4'10"5 の 4 位でゴール。山口は見せ場を作れず、4'20"6 の 6 位でゴール。

12:00 男子 400m 決勝

4 レーンに堀内 (5 年)、6 レーンに高倉 (4 年)、2 レーンに田中佑 (2 年) が出場。堀内、高倉はスタート直後から積極的に飛ばしていく。田中はやや押さえ気味のスタート。200m を過ぎたあたりで、堀内、高倉のスピードが落ち、田中が少し前へ出る。最後の直線で堀内、高倉は前方の選手についていき、それぞれ、4 位、3 位でフィニッシュ。タイムは、高倉が 50"91、堀内が 51"54。田中は 5 位でフィニッシュ。タイムは 52"01 であった。

12:05 女子 400m 決勝

3 レーンに目黒 (3 年)、5 レーンに塩入 (3 年) の出場。塩入は一番外側の不利なレーンからやや抑え気味のスタート。優勝が確実視されていただけに無理にスピードを上げることはしなかったが、バックストレートで早くも独走。第二曲走路に入ってもピッチは落ちることなく、そのまま無難に走り切り 59"35 で優勝。目黒も同様に落ち着いたスタートから周囲の様子をうかがう。バックストレートで徐々にスピードを上げると、第二曲走路では京大の二選手を完全に振り切り、最後の 100m を根性で走り切ってゴール。タイムは 60"93 であった。

12:30 男子 110mH 決勝

2 レーンに田中啓 (3 年)、4 レーンに梅沢 (1 年)、6 レーンに林 (1 年) が出場。田中は好スタートを見せるが、ハードルの 3 台目以降うまくスピードに乗れない。なんとか 3 位を走る京大の選手についていくが、順位は変わらず 4 位。タイムは 15"97 であった。梅沢は、ス

タートはまずまずであったが、後半伸びずに 16"31 の 5 位でゴール。林は、スタートで出遅れ、後半力強い走りを見せるが、16"86 で 6 位であった。この時、向風 2.0m であった。

13:00 男子 4 × 100mR 決勝

レーンは 5 レーン。エントリーは 1 走が相川 (1 年)、2 走が式場 (3 年)、3 走が南條 (4 年)、4 走が米田 (2 年)。相川はスタートこそ無難であったものの、そこから加速できずに 2 位でのバトンタッチ。式場は京大との差を詰め、南條もよくついていき、勝負は全て米田の追い上げにかかった。しかし、残念ながら米田の追い上げも及ばず、1 位と 0"17 差の 42"77 で 2 位に終わった。

13:15 男子 800m 決勝

1 レーンに村井 (2 年)、3 レーンに石井 (4 年)、5 レーンに庄司 (2 年) の出場。快晴に恵まれ、涼しく風も弱い絶好のコンディションでのスタートとなり、記録への期待も高まった。スタート後すぐに石井は先頭に立ちレースを引っ張り、村井がそれに続き 2 番手につく。庄司はやや後方の 5 番手につきレースを窺い、200m を通過。石井は先頭のまま、村井は京大の選手と 2、3 番を争いながら、庄司は 5 番手を守りつつ、400m を先頭が 56"0 で通過。淡々とレースが流れる。しかし 600m を通過したあたりから京大の 2 選手がペースを上げ、村井はコーナー途中で 4 位に後退。石井も先頭で懸命に粘るも、直線で京大 2 選手にかわされてしまう。そのまま石井が 1'56"44 の 3 位、村井が 1'57"17 の 4 位でゴール。庄司は 6 位にならない走りに徹し、終始順位を守り 1'58"84 の 5 位でゴール。必勝を期していただけに選手にとっては悔しい結果となったが、石井、庄司が自己ベスト、村井がセカンドベストと、持てる力を出し切ったレースだった。

13:20 女子 800m 決勝

1 レーンに清水 (1 年)、3 レーンに目黒 (3 年) が出場。男子と同じく絶好のコンディションでのレースとなった。昨年覇者の目黒は、試合の数日前に足を痛めながらも圧倒的な速さでスタートから独走。故障明け後初レースの清水は、自分のペースで 3 番手を追走。二人はそれぞれ 400m を 66"5、75"8 で通過。先頭の目黒は足の不調の影響からか 2 周目に入るとややペースを落としたが、それでも懸命の走りを見せ、2 位に 100m 近い大差をつけて 2 年連続の貫禄勝ち。2'25"60 であった。清水は終始自分のペースを守り、自己ベストの 2'50"25 でゴール。故障明けだったことと、まだ 1 年だということで、今後の成長が期待される。

13:55 男子 200m 決勝

2 レーンに瀧山 (1 年)、4 レーンに式場 (3 年)、6 レーンに米田 (2 年) の出場。米田は爆発的なスタートの後、快調に加速し、21"93 で堂々 1 位でのゴール。式場は調子が完全ではなかったものの、順調な走りを見せ、22"41 の 3 位でゴール。同じく足の負傷が心配されていた瀧山もよくついていき、ゴール付近で一人をかわし、23"19 の 5 位でゴール。この時、向風 1.1m であった。

14:30 男子 400mH 決勝

1 レーンに坂田 (1 年)、3 レーンに磯部 (1 年)、5 レーンに高倉 (4 年) がエントリー。高倉は順調なスタートであったが、あまりスピードが乗らず 4 位で第 3 コーナーを曲がる。しかし、最後に見事な追い上げを見せ、57"34 の 2 位でゴールした。磯部は終始危なげない走りによくついていき、63"75 で 4 位。坂田はバックストレートで転倒、負傷したが無事完走し、77"54 の 5 位であった。

14:45 女子 3000m 決勝

濱田 (3 年)、向田 (1 年) の出場。向田は

スタート直後から先頭の京大の選手をしっかりとマークし、レースは進んでいく。しかし、最近、貧血気味になってしまったせいもあってか、1000m 付近から徐々に離されてしまう。それでもそれ以降は、粘りの走りを見せ、3 番手以降を大きく引き離して、11'28"62 の 2 位でゴール。貧血という逆境にも負けず、勇敢に戦い続けるその姿は、陸上部員皆に大きな感動を与えた。一方、濱田は控えめに後方からスタートし、スタート直後からマイペースをしっかりと守った走り、淡々と周を重ねていく。そして後半に少しペースを上げ、最後までしっかりとした走り、フィニッシュ。13'10"33 の 4 位であった。

15:05 男子 5000m 決勝

田坂 (4 年)、深瀬 (3 年)、村田 (2 年) の出場。序盤から持ち記録 14'32" の西村 (京大) が先頭に立つと比較的落ち着いたペースでレースは進み、集団のまま 2000m を 6'10" で通過。先頭のペースはそのまま変わらないものの、まず 2400m 付近で深瀬と宮木 (京大) が、続いて 3000m 手前で村田が脱落し、さらに 3400m 過ぎで佐藤 (京大) が徐々に遅れ出すと、そこから田坂と西村の一騎打ちになった。田坂は 4000m からのペースアップに離されかけながらも粘り、勝利への執念を見せるが、西村の 60 秒/周を切る猛烈なスパートの前に力尽き、2 位でゴール (15'21"28)。今シーズン、トラックでは結果を残せていなかったが、最後の京大戦では副将及び長チーフの意地を見せ、シーズンベストの走りでもとめた。一方、中盤で遅れた東大勢は 3 位からも大きく離れて村田が 4 位 (15'55"35)、深瀬が 5 位 (15'56"15) で並ぶようにしてゴール。来年度の長距離パートを引っ張る 2 人の奮起に期待したい。対校得点は東大の 1 点負けとなり、対校戦の敗北が決定してしまった。

15:35 女子 4 × 100mR 決勝

小原 (1 年)-塩入 (3 年)-中西 (4 年)-目黒 (3 年) の走順で 5 レーンに出場。1 走の小原は得意のスタートから飛び出すと、そのまま京大との差をぐいぐい広げて、2 走の塩入へうまいバトンパスをみせる。塩入は短距離二冠の貫禄を見せつける走り、京大をさらに引き離し、ほとんど勝負を決めた。3 走中西へのバトンパスも成功。中西は力強い走り、コーナーをうまくまわり、バトンは 4 走目黒へ。目黒のスタートがわずかに早く、一瞬周囲をひやりとさせたが、ぎりぎりのところでバトンは通り、目黒がスタート。この時点で東大の勝利はほぼ間違いないものと思われたが、目黒は最後まで気を抜くことなく 100m を走りきり、優勝。タイムは 51"66 であった。

15:45 男子 4 × 400mR 決勝

高倉 (4 年)-田中佑 (2 年)-村井 (2 年)-石井 (4 年) の走順で出場。第 1 走者の高倉はスタートからとばして、第 2 走者へのバトンパスまで、危なげない走り、京大についていく。第 2 走者の田中は、前半とてもいいペースでとばして京大についていったが、後半に少し離されてしまった。また、第 3 走者の村井とのバトンパスでミスがあり、差が開いた。第 3 走者の村井は終始一貫してよいペースで走り、中距離選手のスタミナを見せつけた。最終走者の石井は、良い滑り出しをみせ、京大との差を詰める。しかし、追いつくことはできずに 3'28"79 の 2 位でフィニッシュ。

フィールド**10:30 男子走高跳決勝**

村口 (4 年)、田中啓 (3 年)、宮 (1 年) が出場。村口、田中は 1m80 から、宮は 1m75 から競技を開始した。1m75 を宮は 1 度でクリアー。続く 1m80、村口、田中は 1 度でクリアー、宮も何とかク

リアーした。1m85 も村口、田中は 1 度でクリアー、宮も 3 度目で何とかクリアーした。田中は 1m90 でも高い跳躍を見せ、1 度でクリアー、村口も 3 度目でクリアーしたが、宮はここで脱落した。記録 1m85 で 4 位であった。1m95 では田中が二度目でクリアー、村口はここで惜しくも 3 回失敗をした。記録 1m90 で 2 位であった。2m00 は田中が二度失敗した後、今までにない高いジャンプを見せ、クリアーした。2m05 は越えられなかったが、記録 2m00 で 1 位であった。男子走高跳は合計 14 点を獲得した。

10:30 男子ハンマー投決勝

小笠原 (4 年)、岡本 (4 年)、池田 (3 年) の出場。小笠原は優勝と東大記録を狙い、安定して 40m 以上の投擲を見せる。徐々に記録を伸ばしていき 4 投目に自己ベストとなる 44m26 を投げるが、1 投目に 45m を超える投擲を見せた京大の河村に一步及ばず、無念の 2 位となる。岡本は 1 投目に 28m48 を投げベストに近づくが、意識するあまり力みが消えず、伸ばすことができない。終盤感覚を取り戻すも、京大の二番手への 1m の差は遠く、結局 1 投目の記録で 4 位だった。池田は必ずしも体調が万全でない中、27m72 の自己ベストで 5 位であった。4 年となる来年はさらに頑張りたい。

11:30 男子走幅跳決勝

藤田 (3 年)、吉岡 (3 年)、竹内 (1 年) が出場。終始追い風の中、まずは藤田が 2 本目に 6m98 でトップへ。吉岡も 3 本目に 6m61 で 3 位につける。3 年生の 2 人が奮闘を見せるなか、1 年竹内が前半 3 本すべてファールで記録を残せない。藤田は後半も安定して 6m90 台を跳ぶも足に違和感を感じ、本調子を出せずに 7m には届かなかった。吉岡も後半

に入って大ジャンプを見せるが、寸分のファールに悩まされ記録を伸ばせなかった。竹内は 5 本目までファールを続けた後、6 本目に記録残しのための跳躍を行い、6m43 の記録で京大生を 1 人かわした。結果、1 位藤田 6m98、3 位吉岡 6m61、5 位竹内 6m43 であった。

11:30 女子走幅跳決勝

中西(4 年)、小原(1 年)の出場。小原はくるくる変わる風のため助走合わせに苦労し、踏み切り板にうまく乗れない跳躍が続く。それでも 1 跳目に 4m42、3 跳目に追い風参考ながら 4m51 をマーク。対する京大の選手はそれぞれ 4m61、4m53 と非常に接戦ながら、小原の上に位置し、3 跳目までで小原は 4 位。その後もスピードを生かした跳躍を見せるが、やはり助走合わせに苦労し、その後は記録を伸ばせずに 4 位 4m51 に終わった。中西は 1 跳目から 5m05 を跳びトップに立つ。中西も助走合わせに苦労するが、5 跳目には自己ベスト更新となる 5m25 を記録する。しかし、惜しくも追い風参考であった。6 跳目には 5m11 を跳び、1cm ではあるが大会記録を更新。危なげなく優勝した。

11:45 男子円盤投決勝

小笠原(4 年)、島田(4 年)、合田(1 年)の出場。試技順トップの合田は、前半はターンを抑え気味に行い、30m 台とまずまずの記録。後半はスピードをあげて、33m21 まで記録をのばし、2 位で競技を終えた。小笠原は疲れのせいからかあまりよい投擲ができない。6 投目に 28m48 を投げるが力を出しきれず 5 位に終わる。島田は七大以降は 30m を越えるのがやっとの投擲しかできていなかったのが不調かと思われたが、本番では 1 投目に 33m 台の記録を出して試合をリードすると、3 投目に 34m48 の

ベストを投げ、最後の京大戦にして、初の個人種目での対校戦勝利を果たし、4 種目出場の中で良いスタートを切った。

13:15 男子棒高跳決勝

小笠原(4 年)、島田(4 年)、持永(1 年)の出場。持永は記録を残すため 2m50 からの挑戦、1 跳目は足が合わず失敗したが 2 跳目で難なくクリア。新しいポールに慣れるためいろいろ試行錯誤しつつ 2m80、2m90 と跳んでいくが、3m00 で失敗し 6 位に終わった。小笠原は砲丸投の直後で十分練習ができないまま試技に入る。3m20 は 1 回目でクリアするが、次の 3m40 ではポールをうまく曲げきれず 3 回とも失敗し 4 位に終わった。島田は七大戦以後全助走での跳躍練習をこなしていない上に、砲丸、やり投と試技時間帯がかぶってしまい軽く足合わせただけで試技に入った。3m60 からの試技となったが、これを 1 回でクリアし、3m80 も余裕のある跳躍で越え優勝を果たした。それ以降の試技はやり投のために棄権した。

13:15 男子砲丸投決勝

小笠原(4 年)、岡本(4 年)、島田(4 年)が出場。小笠原は 2 投目に自己ベストとなる 9m23 を投げるが、それ以上記録を伸ばせず 6 位に終わる。岡本も持ち記録では遠く及ばないものの、気迫で記録を狙うが、1 投目に 9m39 のベストを出した以降は伸ばせず 5 位に終わる。島田は持ち記録的には京大の三番手である河村になんとか勝てるか、というところだったが、河村に 2 投目で 11m 台を投げられてしまい、島田も 2 投目にベストとなる 10m44 を投げるもそれ以後の試技ではその差を埋めることができず 4 位に終わり、スコンク負けを喫してしまった。

13:15 女子砲丸投決勝

中西(4年)、濱田(3年)の出場。中西は1投目 8m54、2投目 8m29 とタイミングの合わない投げしかできず、8m 台の記録が続く。修正することもできず、3投目の 8m73 以上に記録を伸ばすことはできなかったが、それでも1位は獲得。去年に続き連覇を果たした。濱田はスピードを感じさせる投げで1投目に 6m23 を記録。対する京大の選手は 6m50 台と 6m10 台の記録で、接戦で濱田は3位につける。その後は3投目に 6m19、4投目に 6m22 と良い感じの投げが続くが、1投目を超えることはできなかった。しかし4位の選手に追いつかれることはなく、3位を獲得。この種目で東大は6点獲得し、フィールド優勝を決めた。

14:30 男子三段跳決勝

藤田(3年)、佐野(1年)、林(1年)の出場。藤田は、最近の不調であまり記録が伸ばせず苦しみながらも、最後に 14m70(+0.3) を跳んだ。しかし残念ながら1位の記録には10センチ届かず2位。佐野は1跳目から手拍子を求め、積極的な姿勢を見せ、その1本目に 14m15(+0.8) を跳んで関東インカレ2部B標準を切り好調振りを見せたが、気合が入りすぎてスタミナ切れしたのかそれ以降は記録を伸ばすことはできず3位。林は110mHの疲れもあってか、全体的に勢いがなく 12m61(+0.5) で5位であった。

14:30 男子やり投決勝

島田(4年)、池田(3年)、持永(1年)の出場。持永は指の怪我の影響もあってなかなか本来の投擲ができずに4投目に記録した 36m60 で6位に終わり、池田は復調の兆しを見せ 46m28 を投げ3位、島田は棒高跳びが長引いたため1投目を投げられなかったものの2投目か

ら投げ始め、順調に記録を伸ばし5投目に自己ベストとなる 47m23 を記録し1位となった。

1.5 試合結果

第76回東京大学・京都大学対校陸上競技大会
第2回東京大学・京都大学対校女子陸上競技大会
於 東京大学駒場第1グラウンド (H15.10.5)

男子 100m 決勝 (-1.2)

1	米田 武史	東京大	11"04
2	若山 哲志	京都大	11"25
3	式場 健太	東京大	11"33
4	藤井 章輔	京都大	11"35
5	花谷 直人	京都大	11"59
6	相川 啓佑	東京大	11"61

男子 200m 決勝 (-1.1)

1	米田 武史	東京大	21"93
2	藤井 章輔	京都大	22"29
3	式場 健太	東京大	22"41
4	村地 優樹	京都大	23"01
5	瀧山 健	東京大	23"19
6	北垣 卓	京都大	23"41

男子 400m 決勝

1	水谷 太郎	京都大	49"05
2	村地 優樹	京都大	50"00
3	高倉 栄男	東京大	50"91
4	堀内 壮太	東京大	51"54
5	田中 佑貴	東京大	52"01
6	涌井 健策	京都大	53"39

男子 800m 決勝

1	前川 真彦	京都大	1'56"02
2	岡本 英也	京都大	1'56"38
3	石井 康雄	東京大	1'56"44
4	村井 昂志	東京大	1'57"17
5	庄司 一郎	東京大	1'58"84
6	磯島 弘	京都大	1'59"84

男子 1500m 決勝

1	西村 好康	京都大	3'56"2
2	新井 邦生	東京大	3'58"0
3	佐藤 章徳	京都大	4'03"0
4	今泉 勇	東京大	4'10"5
5	三好 達也	京都大	4'12"1
6	山口 健介	東京大	4'20"6

男子 5000m 決勝

1	西村 好康	京都大	15'04"11
2	田坂和彦	東京大	15'21"28
3	佐藤 章徳	京都大	15'26"63
4	村田 拓哉	東京大	15'55"35
5	深瀬 剛正	東京大	15'56"15
6	宮木 貴志	京都大	16'08"59

男子 110mH 決勝 (-2.0)

1	佐藤 真一郎	京都大	15"08
2	若山 哲志	京都大	15"26
3	尾崎 禎亮	京都大	15"74
4	田中 啓	東京大	15"97
5	梅沢 啓	東京大	16"31
6	林 盛	東京大	16"86

男子 400mH 決勝

1	水谷 太郎	京都大	53"59
2	高倉 栄男	東京大	57"34
3	前川 真彦	京都大	60"41
4	磯部 洋輔	東京大	63"75
5	坂田 祐輔	東京大	77"54

男子 4 × 100mR 決勝

1	京都大学	42"60
2	東京大学	42"77
(相川-式場-南條-米田)		

男子 4 × 400mR 決勝

1	京都大学	3'20"92
2	東京大学	3'28"79
(高倉-田中佑-村井-石井康)		

男子 走幅跳 決勝

1	藤田 靖浩	東京大	6m98
2	杉本 昌大	京都大	6m90
3	吉岡 和夫	東京大	6m61
4	垣畑 陽	京都大	6m48
5	竹内 昌男	東京大	6m43
6	高橋 孝治	京都大	6m39

男子 三段跳 決勝

1	福山 大典	京都大	14m80
2	藤田 靖浩	東京大	14m70
3	佐野 太郎	東京大	14m15
4	横矢 龍之介	京都大	13m90
5	林 盛	東京大	12m61

男子 走高跳 決勝

1	田中 啓	東京大	2m00
2	村口 和人	東京大	1m90
3	渡辺 浩一	京都大	1m90
4	宮 正彦	東京大	1m85
5	横矢 龍之介	京都大	1m80
6	松久 佳弘	京都大	1m80

男子 棒高跳 決勝

1	島田 俊雄	東京大	3m80
2	垣畑 陽	京都大	3m60
3	平野 聖	京都大	3m30
4	小笠原 義之	東京大	3m20
4	佐藤 真一郎	京都大	3m20
6	持永 新	東京大	2m90

男子 砲丸投 決勝

1	竹村 顕大朗	京都大	11m93
2	森川 陽介	京都大	11m63
3	河村 和彦	京都大	11m04
4	島田 俊雄	東京大	10m44
5	岡本 泰英	東京大	9m39
6	小笠原 義之	東京大	9m23

男子 円盤投 決勝

1	<u>島田 俊雄</u>	東京大	34m48
2	<u>合田 隆彦</u>	東京大	33m21
3	<u>河村 和彦</u>	京都大	31m10
4	<u>吉崎 敬祐</u>	京都大	29m28
5	<u>小笠原 義之</u>	東京大	28m48
6	<u>田中 聡一</u>	京都大	27m56

男子 ハンマー投 決勝

1	<u>河村 和彦</u>	京都大	45m83
2	<u>小笠原 義之</u>	東京大	44m26
3	<u>田中 聡一</u>	京都大	29m70
4	<u>岡本 泰英</u>	東京大	28m48
5	<u>池田 大行</u>	東京大	27m72
-	<u>木村 克也</u>	京都大	NR

男子 やり投 決勝

1	<u>島田 俊雄</u>	東京大	47m23
2	<u>松田 俊</u>	京都大	47m10
3	<u>池田 大行</u>	東京大	46m28
4	<u>高橋 孝治</u>	京都大	39m46
5	<u>垣畑 陽</u>	京都大	37m76
6	<u>持永 新</u>	東京大	36m60

男子 トラック順位

1	京都大学	103 点
2	<u>東京大学</u>	80 点

男子 フィールド順位

1	東京大学	86.5 点
2	京都大学	79.5 点

男子 総合順位

1	京都大学	182.5 点
2	<u>東京大学</u>	166.5 点

女子 100m 決勝 (-0.3)

1	<u>塩入 敦子</u>	東京大	13"21
2	<u>小原 明恵</u>	東京大	13"67
3	<u>北川 佳奈</u>	京都大	14"17
4	<u>海野 益代</u>	京都大	14"37

女子 400m 決勝

1	<u>塩入 敦子</u>	東京大	59"35
2	<u>目黒 亜由子</u>	東京大	60"93
3	<u>滝上 伸子</u>	京都大	71"66
4	<u>溜 宣子</u>	京都大	78"33

女子 800m 決勝

1	<u>目黒 亜由子</u>	東京大	2'25"60
2	<u>山下 里絵</u>	京都大	2'39"28
3	<u>岩瀬 祥子</u>	京都大	2'41"70
4	<u>清水 里紗</u>	東京大	2'50"25

女子 3000m 決勝

1	<u>田端 亜衣子</u>	京都大	11'05"73
2	<u>向田 恵</u>	東京大	11'28"62
3	<u>中村 奈都子</u>	京都大	11'49"50
4	<u>濱田 摩耶</u>	東京大	13'10"33

女子 4 × 100mR 決勝

1	<u>東京大学</u>	51"66
(小原-塩入-中西-目黒)		
2	京都大学	56"46

女子 走幅跳 決勝

1	<u>中西 紅美</u>	東京大	5m25
2	<u>海野 益代</u>	京都大	4m71
3	<u>北川 佳奈</u>	京都大	4m61
4	<u>小原 明恵</u>	東京大	4m51

女子 砲丸投 決勝

1	中西 紅美	東京大	8m73
2	北川 佳奈	京都大	7m12
3	濱田 摩耶	東京大	6m23
4	森村 あかね	京都大	6m08

女子 トラック順位

1	東京大学	27 点
2	京都大学	19 点

女子 フィールド順位

1	東京大学	11 点
2	京都大学	9 点

女子 総合順位

1	東京大学	38 点
2	京都大学	28 点

1.6 主務より

京大戦の応援に駆けつけて下さった OB・OG
の方々を卒年順敬称略でご紹介いたします。あり
がとうございました。

1940 永井真茂
1948 山崎英也
1952 澤島政行
1957 竜沢俊文
1957 藤田宏明
1958 浦野穂昌
1960 稲葉滋
1960 梅田圭良
1960 笹治峻
1960 高山弘
1961 宮下国生
1962 辻義弘
1962 米倉秀和
1963 井上尚男
1963 興津誠
1963 篠原健
1964 寺尾勝汎

1965 石堂怜
1965 井原鉄雄
1965 渡部一之
1966 倉沢璋伍
1966 土谷喬
1966 村田歆吾
1966 森尾正照
1967 田中潔
1967 林義之
1968 小林寛道
1974 稲垣義孝
1974 栗明純生
1981 島谷哲
1982 室城信之
1983 梅本道生
1984 渡辺吏
1985 石川淳
1991 宮崎昭彦
1992 松浦幹太
1993 北沢剛久
1994 工藤麻衣子
1997 小泉賢滋
1999 工藤洋治
2000 藤原大二
2000 渡辺国広
2001 稲澤晋
2001 岡野浩行
2001 中台慎二
2001 新妻拓弥
2001 本田達也
2002 池田紘士
2002 衛藤淳一
2002 片桐梓
2002 佐藤康治
2002 関水康伸
2002 田村潔
2002 永田章人
2002 仁井谷聖実
2002 仁井谷興史
2002 村松綾子
2003 安達太一

2003 大竹洋平
2003 小山剛史
2003 出口雅俊
2003 橋本武
2003 林健太郎
2003 肥後明佳
2003 藤本優
2003 松林武生
2003 宮本幸子
2003 山崎智裕
2003 和田真悠子
(卒年順敬称略)

れば練習、調整が思うようにいかないのも当然ですから、そこそこ走ってくれば、それはよしとすることと思います。一方今後を担う2、3年生のできがよくなかったというのは、大きな反省点です。北海道では非常によい環境で合宿をやらせてもらっていますが、それが必ずしも生きていないということで、来年に向けて夏から秋への持つて行き方を再検討する必要があると思います。そして何にも増してもう一段高いレベルで走れる核が必要です。箱根開催は、コースも大変となり、応援する側も前夜から行くことになり、負担が大きかったですが、晴れの舞台といった華やかさも感じられたのも事実です。毎年ご支援いただく渡辺吏君を始めとする方々、特に今回前夜の宿泊にご助力いただいた小林俊先輩に感謝します。

2 箱根駅伝予選会

2.1 監督の言葉

箱根での予選会 監督 八田 秀雄

箱根駅伝予選会は10月18日に、今回は80回の記念大会という意味合いもあって、芦ノ湖湖尻をスタート・ゴールとする16.3キロで行われました。細かいアップダウンが続く平坦部がほとんどありません。9時半スタートで薄曇り、標高740mのせいもあり、例年よりも気温も低く、気象条件はよかったと思います。今年は15分台がようやく10人揃い、例年とは記録の比較はできないので、順位が楽しみでした。スタートしてしまうと周回コースでないので3キロ、最後の1キロしか見られない状況では、途中の展開はわかりません。結果は田坂が部内1位で個人が200位の54分46秒。それに僅差で相原が続くも、そこから少し空いて、57 - 58分で次々ゴールでした。総合は9時間33分30秒の総合21位。本大会のシード校が1つ増えたので、昨年と同じ順位でした。食らいつきたかった慶応、国武大にはかなり差が付き、後ろの上武、立教が迫っているということで、今ひとつという感じです。大学院生がやる気を出して4人走ったということは、我々の特色を出せたということで評価しています。また大学院生とな

2.2 副将・長距離チーフの言葉

副将・長距離チーフ 田坂 和彦

今年の予選会は箱根芦ノ湖周辺で行われましたが、早朝から多くの方々にわざわざ応援に足を運んで頂き、チーフとして深く御礼申し上げます。東大が箱根本戦を走ってから20年目の節目の年に、今まで以上に厚い御支援を頂き、部員達も頑張ってきたのですが、残念ながら今年も上位校との壁を破ることは出来ませんでした。コースは傾斜の非常に厳しいアップダウンが多く距離も16.3kmであったため、歴代記録との比較も許されず順位だけしか評価されないという、下位校にとっては意識の持ち方の難しい状況でしたが、選手を中心によく集中して1年間やっていたと思います。今年はエントリーの14人中5人が大学院生という今までにない布陣で、夏合宿や普段の練習から現役部員に刺激を与えて頂きました。来年は今年走った中からは4人しか残りませんが、必ずその意志を受け継いで強いメンバーを揃えてくれることと思います。今後も中長距離を温かく応援して頂けますようお願い致します。

2.3 選手の言葉

4 年 田坂 和彦

アップダウン対策は十分にやったつもりでしたが、京大戦の調整もあり今思えば直前期は平地しか走れていませんでした。入りから全く余裕が無く、相原先輩が前を走っていなければ妥協してあと1分は遅くなっていたと思います。何とか2年生の時から3年間、部内1位で帰って来ることが出来ましたが、1番手が学内順位を気にしているようでは情け無い限りです。4年間努力でカバー出来ることは全てやったつもりでいましたが、力及びませんでした。今まで温かく見守って下さったOB・OGの方々、監督、コーチ、部員の皆さんに心より感謝致します。本当にありがとうございました。

院1 相原 佑康

当日の朝は今までになく調子がよかった。ハードなコースに不安はあったが前半から飛ばして行った。ラストの上り坂で足が動かなくなってしまったが、応援のおかげで最後まで気持ちを切らさずに走りきることができた。現時点での力は発揮できたと思う。応援・サポートの方は本当に本当にありがとうございました。

院1 山崎 智裕

序盤は積極的にいって緊張をほぐそうと、スピードを速めにして走りました。それはよかったのですが、12キロ過ぎあたりから、精神的に弱くなってしまい、苦手な坂でスピードがかなり落ちてしまうという状態になってしまいました。ラストは上げたものの、後半の弱さは反省点として残りました。結果は251位で、去年より11位順位を伸ばしましたが、もっといけたのではと思うので、来年院生チームで出場するときにはいい走りをしたいと思います。応援・サポートの皆様、ありがとうございました。

院1 小山 剛史

みなさんに対して「ありがとう」、「ごめんなさい」と言います。感謝はこれまでサポート、応援をしてくれたことに対して、謝罪は予選会に向けて本気で取り組むと言ったことが嘘になってしまったことに対してです。大学院生活に対する認識が不足していました。目標に向かって本気でやりきったと言える競技生活を過ごせたら幸せだろうと思いました。

2 年 宮崎 哲平

今年は、初出場でしたが、今現在もっている実力はほぼ出し切れたと思っています。まだまだ地力が足りないので、あと2年間、1日1日を大切に、地道に実力をつけていきたいです。そして、応援・支援して下さる方々の気持ちに少しでも応えられるようにになりたいです。ありがとうございました。

2 年 中原 健二

最近の調子を考えればまずまず走れたと思います。ペース配分もうまくでき最後までくずれることなく走れました。一方で上位校の選手や田坂さん相原さんと比べるとまだまだ力の差があるなど感じました。来年のことを考えるとこの力の差をうめなくては順位をキープすることすらままならないので今後一層危機感をもって練習に取り組みたいと思います。

院1 田辺 匡亮

ハイペースで入りすぎてしまい、アップダウンにやられて序盤でまったく足が動かなくなってしまった。院生にもなって部内7位と不甲斐ない走りに終わってしまい非常に悔しいです。あと1年残された大学院での陸上人生を悔いのないものとするように頑張っていきたいです。

4 年 松崎 孝大

学部生として最後の箱根駅伝予選会を無事に走り終えたことに何より満足しています。直前になって脚を痛めてしまい、かなり精神的に落ち込んだのですが、色々な人の支えがあり、当日はスタートラインに立つことが出来ました。レースの結果だけを見れば納得いくものではなく、反省点は多々あります。しかし、アップダウンのきつい難コースを楽しんで走ることが出来ました。自分にとって今までにない経験になったと思います。応援・サポートの方には本当に感謝しています。ありがとうございました。

4 年 春木 洋輔

今シーズンはずっと調子が上がらず、予選会でも納得のいく走りはできませんでした。しかしそれでも部内 10 位以内に入ることが出来、最低限の役割は果たせたのではと思います。多くの方々に応援を頂き、苦しいレースでしたが、同時にとても楽しいレースでした。ありがとうございました。

5 年 熊丸 拓郎

自分にとっては最初で最後の予選会となりましたが、自分の持っている力を最後まで出し切ることが出来たと思います。ラストの 1 キロではもう全身が痛かったのですが、いつもならば出ないような力が出ました。順位はあまりよくなく、最後までチームに貢献できなかったのが残念でしたが、本当に限界だったので勘弁してください。

3 年 深瀬 剛正

部内 11 位という結果に終わりチームにも貢献できず、また自分としても納得のいく走りができず悔しい気持ちでいっぱいです。自分にはあと 1 年しかありませんが、自分はトラックもロードもまだまだこれからなので怪我だけには注意して頑張っていきたいと思います。応援、サポートしてくれた方々本当にありがとうございました。

2 年 村田 拓哉

今回は納得する走りができず大変悔しい結果となってしまいました。しかしこの大会で新たな課題を見つけることもできました。来年はチームの中心となる走りができるよう、これからの 1 年間努力していこうと思います。

2.4 試合結果

第 80 回 箱根駅伝予選会

於 箱根芦ノ湖畔 (H15.10.18)

総合順位		
順位	大学名	最終総合タイム
1	法政大学	8 時間 37 分 50 秒
2	亜細亜大学	8 時間 38 分 07 秒
3	神奈川大学	8 時間 38 分 16 秒
4	帝京大学	8 時間 38 分 57 秒
5	東京農業大学	8 時間 40 分 34 秒
6	関東学院大学	8 時間 40 分 56 秒
7	早稲田大学	8 時間 38 分 16 秒
8	城西大学	8 時間 43 分 05 秒
9	国士舘大学	8 時間 44 分 21 秒
以上 9 校本戦出場		
10	拓殖大学	8 時間 44 分 25 秒
21	東京大学	9 時間 33 分 30 秒

個人順位		
200	田坂 和彦	54 分 46 秒
208	相原 佑康	54 分 56 秒
241	小山 剛史	56 分 48 秒
251	山崎 智裕	57 分 32 秒
263	宮崎 哲平	57 分 55 秒
269	中原 健二	58 分 12 秒
279	田辺 匡亮	58 分 27 秒
290	松崎 孝大	58 分 49 秒
293	春木 洋輔	58 分 52 秒
294	熊丸 拓郎	58 分 55 秒
303	深瀬 剛正	59 分 10 秒
327	村田 拓哉	60 分 00 秒

3 新主将・新女子主将・新主務の言葉

3.1 新主将の言葉

新主将 式場 健太

今年度の主将に就任いたしました短距離パート3年の式場健太です。先日の京大戦には、たくさんのOB・OGの方々のご出席をいただきましてまことにありがとうございました。先輩方の大声援に後押しされ、現役部員も精一杯戦い抜くことができました。この場をかりて御礼申し上げます。さて、今シーズンを振り返ってみますと、対校戦での負けが多かったことが反省点としてあげられます。しかし、部員ひとりひとりの試合への意識は決して低いものではなく、力を出し切った負けも多かっただけに、やはり近年は他校のレベルがあがっていることを実感せざるをえません。チーム全体の現在の競技力がもう一回りレベルアップしないかぎり、来年度も対校戦に勝つことは望めないのではないかと思います。これからいよいよ冬の鍛錬期に入っていきます。同時にこれは東大陸上部の関東インカレ1部校復帰への挑戦のスタートでもあります。部全体が一丸となって戦う対校戦としては最高のレベルにある関東インカレに一人でも多くの選手を送り込むことができれば、その後の対校戦にも好影響を与えることはいうまでもありません。来年の部便りの誌面上では、東大勢の活躍をお伝えできるよう部員一同練習に励んでまいりますので、1年間ご支援のほどよろしくお願いいたします。

3.2 新女子主将の言葉

新女子主将 塩入 敦子

これから1年間女子の主将を務めさせていただきます、短距離・障害パート3年の塩入敦子です。女子は近年対校戦においては好結果をおさめておりますが、フィールド種目で活躍していた前女子主将の中西さんが抜けてしまう来年度は苦戦が予想されます。しかし、今年度はトラック種目で1年生の活躍が光り、今後に期待のもてる結果とな

りました。また、専門外の種目に積極的に取り組む姿も見られ、対校戦への意識の高まりを感じます。この冬は、バランスのとれたチーム作りを目標に女子部員一同がんばっていきます。OB・OGの皆様におかれましては、ますますのご支援よろしくお願いいたします。

3.3 新主務の言葉

新主務 浅野 晃平

新主務をさせていただきます、長距離3年の浅野です。今後一年間、東京大学陸上運動倶楽部のOB・OGの方々、特に理事の諸先輩には様々な面でお世話になると思います。なにとぞよろしくお願いいたします。さて、私が主務に立候補しました理由は故障のため競技者として部に貢献できないからです。対校戦では1点もとることができませんが、選手が1点でも多くの得点をとれるよう後方支援に徹したいと思っています。まだまだ未熟者ですが、一生懸命頑張ります。重ね重ねよろしくお願いいたします。

4 2003 年度部内 5 傑 2003.10.5 現在

男子 100m

1	米田 武史 (2 年)	10"86(+1.0)	9.23
2	式場 健太 (3 年)	11"00(+0.9)	5.4
3	相川 啓佑 (1 年)	11"36(-0.7)	7.26
4	南條 靖 (4 年)	11"48(+2.0)	4.26
5	藤田 靖浩 (3 年)	11"56(+0.0)	9.6

男子 200m

1	米田 武史 (2 年)	21"93(-1.1)	10.5
2	式場 健太 (3 年)	22"41(-1.1)	10.5
3	瀧山 健 (1 年)	23"19(-1.1)	10.5
4	田中 佑貴 (2 年)	23"55(-1.7)	7.27

男子 400m

1	堀内 壮太 (5 年)	49"95	7.27
2	高倉 栄男 (4 年)	50"91	10.5
3	石井 康雄 (4 年)	51"01	9.6
4	村井 昂志 (2 年)	51"47	9.6
5	伊勢田 明弘 (1 年)	51"62	7.27

男子 800m

1	村井 昂志 (2 年)	1'55"56	6.15
2	笹原 翔太 (4 年)	1'55"73	5.17
3	石井 康雄 (4 年)	1'56"44	10.5
4	庄司 一郎 (2 年)	1'58"84	10.5
5	橋本 淳 (1 年)	2'02"16	6.15

男子 1500m

1	新井 邦生 (1 年)	3'58"0	10.5
2	笹原 翔太 (4 年)	4'03"0	3.30
3	今泉 勇 (4 年)	4'07"14	7.27
4	下野 豊和 (4 年)	4'13"20	9.13
5	中原 健二 (2 年)	4'13"87	6.15

男子 5000m

1	田坂 和彦 (4 年)	15'21"28	10.5
2	村田 拓哉 (2 年)	15'37"98	7.27
3	中原 健二 (2 年)	15'42"27	7.27
4	高橋 竜一 (4 年)	15'43"94	10.5
5	深瀬 剛正 (3 年)	15'56"15	10.5

男子 110mH

1	田中 啓 (3 年)	15"2(+1.4)	5.3
2	梅沢 啓 (1 年)	16"08(+1.9)	9.6
3	林 盛 (1 年)	16"29(+1.9)	9.6

男子 400mH

1	高倉 栄男 (4 年)	55"95	7.27
2	磯部 洋輔 (1 年)	63"75	10.5
3	坂田 祐輔 (1 年)	72"03	7.27

男子 3000mSC

1	高橋 竜一 (4 年)	9'34"35	7.27
2	深瀬 剛正 (3 年)	9'50"77	7.27
3	熊丸 拓郎 (5 年)	10'21"76	6.15
4	山口 健介 (3 年)	10'30"85	6.15
5	大村 泰平 (1 年)	10'45"00	6.15

男子 5000mW

1	春木 洋輔 (4 年)	22'28"1	6.14
---	-------------	---------	------

男子 10000mW

1	春木 洋輔 (4 年)	43'58"19	7.6
2	宮崎 哲平 (2 年)	49'41"57	3.22

男子 走幅跳

1	藤田 靖浩 (3 年)	7m20(+0.0)	9.6
2	吉岡 和夫 (3 年)	6m71(+0.9)	6.15
3	佐野 太郎 (1 年)	6m53(+1.9)	7.27
4	竹内 昌男 (1 年)	6m48(+1.4)	9.6

男子 三段跳

1	藤田 靖浩 (3 年)	15m37(+1.0)	6.7
2	佐野 太郎 (1 年)	14m15(+0.8)	10.5
3	林 盛 (1 年)	13m48(+0.2)	6.15
4	吉岡 和夫 (3 年)	13m00(+0.3)	6.15
5	小笠原 義之 (4 年)	12m51(-0.3)	9.6

男子 棒高跳

1	島田 俊雄 (4 年)	4m00	3.29
2	小笠原 義之 (4 年)	3m50	7.27
3	持永 新 (1 年)	3m00	9.6

男子 走高跳

1	村口 和人 (4 年)	2m00	5.4
1	田中 啓 (3 年)	2m00	10.5
3	宮 正彦 (1 年)	1m85	7.27

男子 砲丸投

1	島田 俊雄 (4 年)	10m44	10.5
2	岡本 泰英 (4 年)	9m39	10.5
3	持永 新 (1 年)	9m37	8.30
4	合田 隆彦 (1 年)	9m33	4.27
5	小笠原 義之 (4 年)	9m23	10.5

男子 円盤投

1	島田 俊雄 (4 年)	34m37	3.30
2	合田 隆彦 (1 年)	33m36	4.27
3	岡本 泰英 (4 年)	30m52	7.27
4	小笠原 義之 (4 年)	30m06	9.6

男子 やり投

1	池田 大行 (3 年)	48m30	4.19
2	島田 俊雄 (4 年)	47m23	10.5
3	天児 泰隆 (1 年)	40m93	6.15
4	持永 新 (1 年)	38m17	9.6

男子 ハンマー投

1	小笠原 義之 (4 年)	44m26	10.5
2	岡本 泰英 (4 年)	28m65	7.27
3	池田 大行 (3 年)	27m72	10.5

男子 10 種競技

1	持永 新 (1 年)	4477 点	8.30,31
---	------------	--------	---------

女子 100m

1	塩入 敦子 (3 年)	12"89(-0.6)	7.27
2	小原 明恵 (1 年)	13"41(+1.0)	9.6
3	中西 紅美 (4 年)	13"68(+0.7)	5.3
4	津村 瑛子 (3 年)	15"08(+1.7)	4.5

編集後記

京大戦・箱根駅伝予選会で 4 年生が引退となり、
今回から新しい部便り係が部便りをお届け致します。
これからの 1 年間、どうぞよろしくお願い致します。

女子 200m

1	塩入 敦子 (3 年)	26"67(+0.2)	6.15
---	-------------	-------------	------

部便り係一同

女子 400m

1	塩入 敦子 (3 年)	58"08	7.27
2	目黒 亜由子 (3 年)	60"55	7.27
3	向田 恵 (1 年)	69"40	9.6

女子 800m

1	目黒 亜由子 (3 年)	2'17"17	7.27
2	清水 里紗 (1 年)	2'50"25	10.5
3	平野 茉来 (3 年)	2'51"61	10.5
4	濱田 摩耶 (3 年)	3'03"12	5.31

女子 1500m

1	向田 恵 (1 年)	5'21"25	9.6
2	平野 茉来 (3 年)	5'53"03	9.6

女子 3000m

1	向田 恵 (1 年)	11'19"60	7.27
2	濱田 摩耶 (3 年)	13'10"33	10.5
3	平野 茉来 (3 年)	13'17"14	7.27

女子 400mH

1	塩入 敦子 (3 年)	63"30	8.27
---	-------------	-------	------

女子 走幅跳

1	中西 紅美 (4 年)	5m24(+1.9)	7.27
2	小原 明恵 (1 年)	4m63(+1.0)	9.6

女子 走高跳

1	中西 紅美 (4 年)	1m35	7.27
---	-------------	------	------

女子 砲丸投

1	中西 紅美 (4 年)	9m93	6.15
2	濱田 摩耶 (3 年)	6m57	7.27
3	津村 瑛子 (3 年)	4m99	10.5

女子 やり投

1	中西 紅美 (4 年)	28m33	5.31
2	濱田 摩耶 (3 年)	22m08	6.15

文責：平野、山口